

令和5年度公社等点検評価表

(一次点検評価・二次点検評価)

公社等名	公益財団法人 福島県下水道公社
所管部局	土木部
担当課	下水道課

《評価資料》

1	公社等点検評価表	-----	1
2	付表1 (概要)	-----	2-1
3	付表2 (実施事業)	-----	3-1
4	付表3 (経営状況)	-----	4-1
5	付表4 (経営分析等)	-----	5-1
6	付表5 (組織人員体制)	-----	6-1
7	付表6 (県関与の状況)	-----	7-1
8	別紙1 (県の財政的関与 (支援) の内訳)	-----	8-1
9	別紙2 (役員等の状況)	-----	9-1

〔一次点検評価：公社等の自己点検〕

視点1：計画性（マネジメントサイクルの確立）

公社等経営の理念・目標・方針などが、各種計画等に反映され、事業の企画立案、実施、評価、改善が行われているかという、経営マネジメントサイクルの視点

1 マネジメントサイクルの確立

経営計画等の具体的な成果目標とこれまでの評価、事業目標とその実績（付表2）の評価

(1) 経営計画等の具体的な成果目標とこれまでの評価

<目標>

公益財団法人として、県民の生活環境の改善と公共用水域の水質保全に寄与し、公衆衛生の向上と環境の保全という公益的使命を達成するため、各事業に取り組む。

【公益事業】

県内下水道の普及及び財政難や技術者不足等の市町村の支援機関として、市町村のニーズを捉え、これまで培ってきた下水道の専門的な技術力や知識を生かし、効率的かつ効果的な支援を図って行くことを目的として、県民に対する下水道の普及促進及びその支援に関する事業、公共下水道及び流域下水道の維持管理の支援に関する事業、下水道技術の維持・発展に関する事業を行う。

【収益事業】

これまで培ってきた長年の実績、経験及び技術力を生かし、市町村・県のニーズに合った技術支援を行って行くことを目的として、下水道工事に関する設計積算等の受託、下水道に関する水質分析の受託の他、市町村下水道経営の改善や水環境の改善につながる事業を展開する。

<評価>

令和元年度から令和5年度までの5ヶ年の経営方針を定めた第四次中期経営計画に基づき、「進行管理部会」において、年間計画について具体的な取組等を定め、定期的に進行管理及び評価を行った。

令和4年度においては、中期経営計画の4年目における各種事業を積極的に実施した。なお、一部の事業においては、新型コロナウイルス感染拡大防止の考え方から、昨年度同様、変更、中止等の対応を市町村等と調整した。

【公益事業】

下水道の普及促進及びその支援に関する事業（公1）、下水道施設の維持管理の支援に関する事業（公2）及び下水道技術の維持・発展に関する事業（公3）については、概ね目標を達成できた。

【収益事業】

下水道工事に関する設計積算等の受託に関する事業（収1）については、災害復旧に係る設計積算、各種計画策定及び監督員補完業務等を受託し、また、下水道に関する水質分析の受託に関する事業（収2）は、市町村等から安定的に受託し、目標を達成できた。

(2) 事業目標とその実績（付表2）の評価

【公益事業】

(公1) 下水道の普及促進及びその支援に関する事業

若年層（次世代）に対する環境学習等の事業（「施設見学」、「出前講座」、「下水道ポスターコンクール」、「下水道ふれあいバス助成事業」、「げすいどう文庫助成事業」）を重点事業として実施した。新型コロナウイルス感染症の影響により、前年度に比べ利用者数が減少した事業もあるが、市町村や小学校への積極的なPRにより概ね計画どおり執行することができた。

ア 普及促進キャンペーン事業

(ア) 施設見学

教育機関向けのパンフレットを作成し、各市町村教育委員会、各小学校（流域管内）へのPRを継続実施し、2,647名（前年度1,577名）の見学者を受け入れた。

なお、令和元年東日本台風被災により受入れを休止していた県北浄化センターについて、令和4年4月から見学を再開した。

(イ) 出前講座

教育機関向けのパンフレットを作成し、各市町村教育委員会、各小学校（流域管内）へのPRを継続実施し、14校（前年度20校）で実施した。

(ウ) 下水道ポスターコンクール

施設見学及び出前講座等で画用紙を配布するなどポスター作品を募集し、623点（前年度1,081点）の応募があった。また、通年でのPR効果が期待できる作品カレンダーを作成し、流域管内の小学校に配布した。

また、入賞作品を第62回（令和4年度）下水道の日「下水道いろいろコンクール（公益社団法人日本下水道協会主催）」に応募し、うち2点が小学校高学年の部（応募総数3,290点）で入選となった。

(エ) 下水道まつり

県民を対象に流域下水処理場を開放し、下水道への関心と理解を深めてもらうため、令和4年度は新型コロナウイルス感染拡大防止の対応を取りながら、夏休みに親子で参加してもらう施設開放型の見学会を4センターで実施した。

イ 費用助成事業

(ア) 下水道ふれあいバス助成事業

学校教育機関等を対象に流域下水処理場等の施設見学実施を促すため、バスの借上げ経費等を40団体（前年度22団体）に助成した。

(イ) 地域の下水道まつり支援事業

令和4年度は、市町村が催すイベントを実施した3団体（前年度0団体）に助成した。

(ウ) 水環境に関する活動助成事業

利用団体は4団体（前年度4団体）であった。

ウ 図書・資材支援事業

(ア) げすいどう文庫助成事業

学校教育機関を対象に、下水道の仕組みや役割を学べる図書の購入費用について助成を行った。県小学校長会と連携して、チラシによるPRを行い、利用団体数は25校（前年度65校）の利用があった。

(イ) 普及啓発活動に係る広報資材支援事業

市町村を対象に、下水道の普及啓発を目的として実施している活動を支援するため、公社が保有している普及啓発用広報資材の提供・貸与及びマンホールカード制作支援を行った。利用団体は12団体（前年度4団体）と大きく増加した。

(公2) 下水道施設の維持管理の支援に関する事業

県から流域下水道施設の維持管理業務等を受託している県北浄化センターについては、災害復旧工事（令和元年東日本台風被災）が完了したことから、令和4年4月から復旧された設備の適切な運用並びに安定的な運転管理を行い、施設の効率的かつ適正な管理運営に努めた。

また、包括的民間委託が導入されている県中浄化センター、あだたら清流センター及び大滝根水環境センターについては、維持管理補完業務等の適正な執行に努めた。

より良い水環境の確保のため、放流水質の適切な管理を行い、BOD（※1）、SS（※2）について、県との契約基準値を満たした。

なお、大滝根水環境センターでは、田村市が設置するたむら水再生センターからの排水を受け入れることから県及び関係機関と密に連携を図り適正な管理運営に努め

た。

市町村が管理する公共下水道施設についての維持管理支援業務等は、2団体から受託し、維持管理状況の確認及び助言提案などの技術的支援を行い、適正な管理運営に努めた。

(※1) BOD (生物化学的酸素要求量)

水中の微生物が汚れを分解するときに、生物が必要とする酸素の量。

汚れの量が多いほど、生物が必要とする酸素も増えるため大きくなる。

(※2) SS (浮遊物質質量)

水中に浮かんでいる物質の量。

(公3) 下水道技術の維持・発展に関する事業

ア 下水道技術者養成事業

(ア) 下水道維持管理研修会

市町村や県の受講者のニーズにあったテーマの講習会を行い、参加者は34名(前年度23名)であった。

(イ) 市町村下水道担当職員研修

市町村の下水道事業に従事する担当職員を対象に技術研修を行い、受講者は12名(前年度11名)であった。

また、積算システム実務研修を行い、参加者は7名(前年度3名)であった。

(ウ) 下水道事業相談

下水道事業に関する相談に対応することで、各自治体の下水道事業の支援を行った。相談件数は16件(前年度22件)で全ての相談に対応した。

(エ) 市町村下水道事業相談費用助成事業

市町村が抱える様々な課題について公社へ相談しやすい環境整備として、本来有償となる出張を伴う相談業務について、無償で2団体2件(前年度2団体4件)の支援を行った。

(オ) 市町村下水道事業管理職等研修

市町村の管理職員を対象として、公共下水道事業の持続的運営について経営面から考える特別研修で、県及び日本下水道事業団と連携し開催している。

令和4年度は新型コロナウイルス感染拡大防止の考え方から中止とした。

(カ) 下水道関連研修助成

市町村の下水道担当職員を対象に、(公社)日本下水道協会主催の専門研修への参加者に対して、福島県下水道協会と連携し35名(前年度30名)に助成を行った。

イ 下水道排水設備工事責任技術者資格認定事業

資格試験及び講習会を実施し、技術者の育成・技術力向上の支援に努めた。

ウ 下水道技術に関する調査・研究事業

各種研究テーマについて、調査や実証実験等を通じて得られた結果を報告書にまとめ社内発表を行った。なお、過去の調査研究報告書は、ホームページで公開している。

また、これからの時代に対応できるよう公社職員の専門的技術力の充実を図るため、計画的に社内研修等を行い人材の育成に努めた。

【収益事業】

(収1) 下水道工事に関する設計積算等の受託に関する事業

市町村等のニーズに対応して、技術的、専門的な設計積算等の技術支援を行っている。令和4年度の受託収入は、139,943千円で下水道の設計積算のほか、災害復旧関連業務等を受託したことから、80,498千円の収入目標額を大きく上回った。

(収2) 下水道に関する水質分析の受託に関する事業

当公社が培った豊富な経験を活かし、水質分析の専門技術者である環境計量士を配

置き、関連市町に対して流域下水道への接続地点の水質管理業務を支援した。

2 マネジメントサイクルにおける環境変化・住民ニーズの把握方法

(1) 県との連携

年度の早期に県下水道課と、また、毎月定期的に各流域下水道建設事務所と業務打合わせを行うとともに、維持管理業務における諸問題発生時等には、随時打合せを実施することにより、円滑、的確な業務執行に努めている。

また、東京電力福島第1原子力発電所事故により、下水処理場の下水汚泥から放射性物質が検出されたことに伴う汚泥等の放射性物質濃度測定業務等について、県と連携を図りながら適正な業務執行に努めた。なお、保管施設で管理していた放射性物質を含む溶融スラグについては、令和4年5月末までに環境省による全量搬出が完了した。

(2) 市町村及び住民ニーズの把握

各事業ごとにアンケートの実施や、委員会の開催等により、ニーズの把握及び実施内容の評価に努めた。

ア 下水道の普及促進及びその支援に関する事業（公1）

県、市町村及び公社職員で構成する「下水道普及啓発等実行連絡委員会」を開催（令和4年度は書面開催）し、市町村及び県が行う普及啓発事業との連携や公社が行う普及啓発等事業について、計画段階での検討及び事業実施後の評価検証を行うとともに、各イベント参加者や各種助成事業等の利用者に対しアンケート調査を実施し、ニーズの把握に努めた。

イ 下水道施設の維持管理の支援に関する事業（公2）

市町村が管理する公共下水道施設の維持管理に対する支援を強化するため、各市町村から聞き取りなどを行いニーズの把握に努めるとともに、支援の具体化に向けた調整を進めた。

ウ 下水道技術の維持・発展に関する事業（公3）

市町村職員を対象とした研修において、参加者へアンケート調査を実施し、ニーズの把握や実施内容の評価に努めた。

下水道排水設備工事責任技術者資格認定事業については、公正かつ円滑な実施を目的として、各市町村の下水道担当課長で構成する「運営委員会」を開催（令和4年度は書面開催）した。

また、更新講習会参加者に対しアンケート調査を実施し、ニーズの把握や実施内容の評価に努めた。

エ 下水道工事に関する設計積算等の受託に関する事業（収1）

関係市町村との連携を密にするとともに、各市町村に対し聞き取り調査を実施し、ニーズの把握や実施内容の評価に努めた。

オ 下水道に関する水質分析の受託に関する事業（収2）

成果品の納品時に、数値のみの報告だけでなく内容説明や改善対策の提案を行うなど、積極的にニーズの把握に努めた。

また、事業運営に必要な環境計量士を1名増員し、体制の充実を図った。

(3) 将来の方向性

公益財団法人として、下水道の普及促進及びその支援、下水道施設の維持管理の支援、下水道技術の維持・発展に関する事業等を行い、県民の生活環境の改善及び公共用水域の水質保全に寄与することにより、公衆衛生の向上と環境の保全を図るという目的を果たしていく。

また、第四次中期経営計画（令和元年度～令和5年度）に基づき適正な事業執行に努めるとともに、これまで培ってきた経験及び専門的な技術力を生かし、県民及び市町村のニーズに合わせた効率的かつ効果的な業務を担い、だれよりも・だれからも信頼される公社であることを目指していく。

視点2：経済性・効率性

事業の収支バランスと採算性・収益性の視点

1 経営状況（付表3）及び経営分析等（付表4）についての評価

(1) 経営状況及び経営分析等の評価

下水道工事に関する設計積算等の収益事業について、目標額 80,498 千円を上回る収入となったことから、公益事業についても概ね計画通り執行することができた。

令和4年度の正味財産増減額は3,014千円減少（R3決算は20,611千円増加）となったが、効果的な公益事業の展開によるものであり、今後の事業運営に大きく影響するものではない。

また、当社は、短期資金の流動性を表す流動比率（短期的支払能力）が234.4%と資金繰りに問題はなく、借入金もないことから安定した経営を確保している。

(2) 経費削減策（業務軽減）の評価

IT関連業務の増大により、当該職員の超過勤務時間が増加していることから、IT関連業務の一部のアウトソーシングを行い、令和4年度は13件の業務サポートにより、当該職員の業務軽減を図っている。

(3) 収入増加策の評価

「公共下水道施設の維持管理受託」や「下水道ストックマネジメント計画策定業務支援事業」等について、経営層によるトップセールス等の事業PRを行い、要請があった市町村へ積極的に支援を行った。

また、「下水道排水設備工事責任技術者資格認定事業」においては、責任技術者認定試験、登録更新講習及び責任技術者の登録を行い技術者の確保に努めた。

2 サービス向上策の評価

流域下水道施設の維持管理業務等では、4センターとも放流水質の改善及び施設の効率のかつ適正な管理運営に努めており、業務執行に当たっては、PDCA主義を踏まえ、常に効率的な業務改善に取り組み、コスト削減に努めた。

このほか、令和4年度は、公社職員の専門的技術力の充実を図るため、計画的に社内研修会等を行うなど、業務の円滑な執行と職員等の能力の維持向上を図った。

また、外部機関での事例発表など積極的に参加し、技術力の向上などに貢献した発表については、職員の表彰を行った。

その他の公益目的事業及び収益事業においても、市町村や教育機関等への積極的なPRやアンケート調査を実施し、利用の促進及び支援の充実を図った。

〔二次点検評価：左に対する所管部局としての評価〕

視点 1：計画性（マネジメントサイクルの確立）

公社等経営の理念・目標・方針などが、各種計画等に反映され、事業の企画立案、実施、評価、改善が行われているかという、経営マネジメントサイクルの視点

1 マネジメントサイクルの確立

- 各種事業の実施にあたっては、「進行管理部会」を設置して評価・進行管理を行うなどマネジメントサイクルによる主体的・自主的な経営に取り組んでいる。
- 平成 31 年 3 月に「第四次中期経営計画（令和元年度～令和 5 年度）」を策定し、中長期的なスパンで達成すべき業務等内容を位置づけている。
- 「進行管理部会」において、財務状況についても検証を行っている。
- 3 つの公益事業、2 つの収益事業の目標は、公社の設立目的である「公衆衛生の向上と環境保全を図ること」に合致しており、「進行管理部会」において各事業の実績について評価等を行っている。
- 令和 5 年度予定の次期中期経営計画策定の中で、評価結果は反映される見込みである。
- 令和 4 年度の公益事業比率は 95.0%であり、50%を大きく上回っている。
- 専門的な知見や技術力の蓄積があり、付表 2 の事業を効果的・効率的に実施できるものと見込まれる。
- これからの下水道分野の課題である人材不足等を補うための専門的な知見や技術力を有しており、今後、必要性は高まるものと思われる。
- 下水道分野に特化した他の類似団体は、県内にない。

2 マネジメントサイクルにおける環境変化・住民ニーズの把握方法

- 事業ごとにアンケートの実施や委員会の開催等を行うことで関係者のニーズを把握し、各年度において事業の規模縮小・拡大の検討を行うなど、状況変化にあわせて必要な対応を行っている。

視点 2：経済性・効率性

事業の収支バランスと採算性・収益性の視点

1 経営状況及び経営分析等についての評価

- 含み損益を生ずる株式・土地等は保有していない。
- 投資的な事業は実施していない。
- 令和 4 年度の人件費比率は 16.8%であり、令和元年度以降、横ばいである。役員報酬の支給基準については、評議員会において定めている。
- 令和 4 年度の正味財産期末残高は 918,699 千円であり、令和 3 年度の期末残高よりも 3,013 千円減となっており、内部留保金となる利益剰余金はない。
- 一時借入金等はなく、資金管理は適切に行われている。
- 監査、立入検査等における指摘はない。
- 回収を必要とする債権はない。
- 賞与、退職給付、減価償却等の引当は計画的に行われている。
- 借換えの検討が必要な長期借入金等はない。
- I T 関連業務のアウトソーシングなどコスト縮減への取組を進めている。

2 サービス向上策の評価

- 流域下水道施設の維持管理業務等においては、放流水が排水基準に適合していることを確認しながら、放流水質の改善に努めているほか、日頃から業務改善を意識し、電力料をはじめコストの縮減に取り組んでいる。
- アンケート調査により関係者の意向を把握し、より効果的な事業となるよう実施方法の見直しなどに取り組んでいる。

〔一次点検評価：公社等の自己点検〕

視点3：課題への対応状況

共通課題1：東日本大震災からの復旧状況

原子力発電所事故に伴う損失・損害賠償請求の状況

- 1 東日本大震災からの復旧状況

東京電力福島第1原子力発電所事故により、下水処理場の下水汚泥から放射性物質が検出されたことに伴う汚泥等の放射性物質濃度測定業務等について、県と連携を図りながら適正な業務執行に努めた。

また、保管施設で管理していた放射性物質を含む溶融スラグについては、令和4年5月末までに環境省による全量搬出が完了した。

なお、震災後、最大の課題となっていた下水処理場内で一時保管していた脱水汚泥等は、平成28年5月に県中浄化センターで焼却処理が完了し、平成28年12月には県北浄化センターでの乾燥処理が完了し、すべての脱水汚泥等が場外搬出され、保管テントも全棟撤去したことから、汚泥一時保管業務については完了している。
- 2 原子力発電所事故に伴う損失の状況や損害賠償の状況

公社としての損失は今のところ発生していない。

個別課題：

- 1 下水道普及啓発及び市町村支援業務の取組
 - (1) 設計積算等受託業務

市町村及び県が実施する下水道工事に係る設計積算業務等を受託し支援を行った。

また、建設から維持管理の時代を迎えている下水道事業の管理経営を支援するため、当公社で開発した維持管理データシステムを用いて6団体を支援するとともに、希望する3団体へ同システムの無償配布を行った。
 - (2) 市町村職員を対象とした下水道技術者の養成
 - ・下水道維持管理研修会（34名）
 - ・市町村下水道担当職員研修会（初級12名、積算7名）
 - (3) 県民に対する下水道知識の普及、啓発

次のとおり各種事業や支援事業を行い、下水道の普及啓発に努めた。

・処理場の施設見学者	2,647名
・出前講座	14校
・下水道ポスターコンクール	623点
・下水道まつり（4センター）	施設開放型見学会を実施
	県北 21名
	県中 30名
	あだたら 20名
	大滝根 4名
・下水道ふれあいバス助成事業	40団体
・地域の下水道まつり支援事業	3団体
・水環境に関する活動助成事業	4団体
・げすいどう文庫助成事業	25校
・普及啓発活動に係る広報資材支援事業	12団体
 - (4) 第四次公社中期経営計画に基づく事業の執行

平成31年3月に策定した第四次中期経営計画に基づき、県内市町村の支援強化のため、令和元年度に新設した「市町村下水道事業相談費用助成事業」及び「市町村下水道管理職等研修」を継続するとともに、「下水道ふれあいバス費用助成事業」の助成拡充を図り、将来の利用者となる若年層（次世代）に対しての普及啓発事業の充実に努めた。

〔二次点検評価：左に対する所管部局としての評価〕

視点3：課題への対応状況
共通課題1：東日本大震災からの復旧状況 原子力発電所事故に伴う損失・損害賠償請求の状況
<p>1 東日本大震災からの復旧状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 各処理場で保管されていた放射線量の高い下水汚泥は、令和4年5月までに全て搬出されているが、日々発生する下水汚泥の放射性物質濃度測定業務は、当面、継続する予定である。 <p>2 原子力発電所事故に伴う損失の状況や損害賠償の状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 今のところ損失はない。
個別課題：
<p>1 下水道普及啓発及び市町村支援業務の取組</p> <p>(1) 設計積算等受託業務</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 令和4年度の受託実績は、139,943千円（28件）であり、令和元年度以降、100,000千円台（28件～45件）で推移している。 <p>(2) 市町村職員を対象とした下水道技術者の養成</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 令和2年度以降、研修会の参加者は、維持管理研修会が23名～38名、初級研修が11名～13名となっており、毎年度、一定数の職員が参加している。 <p>(3) 県民に対する下水道知識の普及</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 各種事業とも、年度毎の変動はあるものの、継続して一定数の参加がある。 ○ 参加者のニーズに応じて事業内容の見直し・拡充を図っている。 <p>(4) 第四次中期経営計画に基づく事業の執行</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 若年層に対する普及啓発事業として、主に小学生を対象とした「下水道ふれあいバス助成事業」「げすいどう文庫助成事業」「下水道ポスターコンクール」の各事業について拡充を図っている。

2 付表1: 公社概要

公社等の名称	公益財団法人 福島県下水道公社					
設立根拠法令	一般社団法人及び一般財団法人に関する法律 公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律					
設立年月日	昭和63年4月1日 (移行登記日:平成24年4月1日)					
代表者職氏名	理事長 益子 公司					
事務所の所在地	福島市大町5番6号					
ホームページアドレス	http://www.fspc.or.jp					
県所管部・課	土木部下水道課					
設立目的	下水道知識の普及啓発、市町村下水道及び流域下水道施設の維持管理の支援に関する事業を行い、もって県民の生活環境の改善及び公共用水域の水質保全に寄与することにより、公衆衛生の向上と環境の保全を図ることを目的とする。					
経営理念・目標等	(公財)福島県下水道公社の使命は、県民の生活環境の改善と公共用水域の水質保全に寄与し、公衆衛生の向上と環境の保全を図ることにあります。 この公益的使命を達成するため、私たちは、下水道に関する専門的な知識と能力を持ち、広い視野で効率的に業務を担い、だれよりも・だれからも信頼される下水道公社であることを目指します。					
資本金・基本金	H22末	R1末	R2末	R3末	R4末	R5末予定
(単位:千円)	68,850	68,850	68,850	68,850	68,850	68,850
県出資額	34,500	34,500	34,500	34,500	34,500	34,500
(構成比)	50.1%	50.1%	50.1%	50.1%	50.1%	50.1%
令和4年度末 出資等内訳 (単位:千円) ※県分を除く。	出資順位	団体名		出資額		構成比
	1	郡山市		8,384		24.4%
	2	福島市		6,289		18.3%
	3	伊達市		3,888		11.3%
	4	須賀川市		2,434		7.1%
	5	二本松市		2,180		6.3%
主な事業内容 (詳細:付表2)	1 下水道の普及促進及びその支援に関する事業(公1) 2 下水道施設の維持管理の支援に関する事業(公2) 3 下水道技術の維持・発展に関する事業(公3) 4 下水道工事に関する設計積算等の受託に関する事業(収1) 5 下水道に関する水質分析の受託に関する事業(収2)					

付表2:実施事業

1	事業名	継続事業	公益事業
事業内容	<p>下水道の普及促進及びその支援に関する事業(公1)</p> <p>(1)普及促進キャンペーン事業</p> <p>①施設見学 学校教育機関等を対象に、下水処理場の役割や仕組みを直接見て知ってもらふ施設見学を各流域下水処理場で実施する。 なお、令和元年東日本台風被災により受入れを休止していた県北浄化センターについて、令和4年4月から見学を再開した。</p> <p>②出前講座 県内の学校教育機関を対象に、職員を要請先へ派遣し下水道に関する講義等を行う。</p> <p>③下水道ポスターコンクール 流域関連市町村の小学生を対象に、下水道の普及に関するポスター作品を募集し、優秀作品を表彰する。また、入賞作品を用いたオリジナルカレンダーを作成し配布する。 令和4年度、下水道の日「下水道いろいろコンクール(公益社団法人日本下水道協会主催)」において、公社の優秀作品を応募し、うち2点が小学校高学年の部で入選を受賞した。</p> <p>④下水道まつり 9月10日の「下水道の日」の前後に、流域下水道処理施設を開放し、施設等を直接見ることのできるイベントを開催する。 令和4年度は、各処理場において、夏休み期間中に親子で参加できる施設開放型見学会を開催した。</p> <p>(2)費用助成事業</p> <p>①下水道ふれあいバス助成事業 流域下水道施設等を活用した施設見学に対して、バスの借り上げ経費の助成を行う。 令和4年度は施設見学をより計画しやすくするため、高速道路利用料を助成の範囲に含めて、助成の拡充を図った。</p> <p>②地域の下水道まつり支援事業 市町村等が下水道事業の普及啓発を目的として実施するイベント活動に対して、費用の助成を行う。</p> <p>③水環境に関する活動助成事業 公共用水域の水質保全及び生活環境改善を目的に活動する団体に対し、活動費用の助成を行う。なお、令和元年度助成決定分をもって助成先の新規受付を終了している。</p> <p>④市町村下水道事業費支援事業(償還金の管理業務のみ)</p> <p>(3)図書・資材支援事業</p> <p>①げすいどう文庫助成事業 学校教育機関(主に小学校)を対象に、下水道の仕組みや役割について学べる図書の購入費用を助成する。</p> <p>②普及啓発活動に係る広報資材支援事業 市町村を対象に、下水道の普及啓発を目的として行われる活動に対して、公社が保有している普及啓発用広報資材の貸出等を行う。</p>		
目標	<p>県民の下水道に対する関心と下水道整備気運の高揚</p>		

事業実績

(1) 普及促進キャンペーン事業

① 施設見学者数

22年度: 5,093名 (県北・県中・あだたら・大滝根の各センター)

元年度: 1,737名 (県北・県中・あだたら・大滝根の各センター)

2年度: 1,285名 (※ 県中・あだたら・大滝根の各センター) ※県北は被災のため見学停止

3年度: 1,577名 (※ 県中・あだたら・大滝根の各センター) ※県北は被災のため見学停止

4年度: 2,647名 (県北・県中・あだたら・大滝根の各センター)

* 県北浄化センターは完全復旧したため見学受け入れ再開。R4年4月～

② 出前講座

22年度: 5校、元年度: 16校、2年度: 29校、3年度: 20校、4年度: 14校

③ 下水道ポスターコンクール

22年度: 88校 1,012点、元年度: 79校 1,027点、2年度: 56校 541点、

3年度: 65校 1,081点、4年度: 61校 623点

④ 下水道まつり

22年度: 約7,400名 (県北・県中・あだたら・大滝根の各センター)

元年度: 約3,250名 (県北浄化センター、あだたら清流センター、大滝根水環境センター)

その他、流域関連市町村イベントでの広報活動、普及啓発グッズの配付等

2年度: 新型コロナウイルス感染拡大防止の考え方から開催中止

3年度: 新型コロナウイルス感染拡大防止の考え方から開催中止

※施設開放型見学会の開催(あだたら25名、大滝根13名)

4年度: 施設開放型見学会の開催(県北・県中・あだたら・大滝根の各センター)

県北21名、県中30名、あだたら20名、大滝根4名

(2) 費用助成事業

① 下水道ふれあいバス助成事業

22年度: 33団体(57台)、元年度: 21団体(31台)、2年度: 17団体(31台)

3年度: 22団体(41台)、4年度: 40団体(72台)

② 地域下水道まつり支援事業

22年度: 16団体、元年度: 16団体、2年度: 0団体、3年度: 0団体、4年度: 3団体

③ 水環境に関する活動助成事業

元年度: 4団体、2年度: 4団体、3年度: 4団体、4年度: 4団体

④ 市町村下水道事業費支援事業(償還金の管理業務のみ)

令和4年度末貸付金: 1,620千円(当初貸付総額: 350,600千円)

(3) 図書・資材支援事業

① げすいどう文庫助成事業

22年度: 16校、元年度: 8校、2年度: 6校、3年度: 65校、4年度: 25校

② 普及啓発活動に係る広報資材支援事業

22年度: 11団体、元年度: 5団体、2年度: 5団体、3年度: 4団体、4年度: 12団体

事業費	H22決算	R1決算	R2決算	R3決算	R4決算	R3/H22	R4/H22
(単位: 千円)	98,748	19,306	6,096	9,196	9,999	9.3%	10.1%

2

事業名	下水道の維持管理の支援に関する事業(公2)	継続事業	公益事業
(1) 流域下水道施設			
① 県北浄化センター			

事業内容

県から流域下水道施設の維持管理等を受託している県北浄化センターについては、災害復旧工事(令和元年東日本台風被災)が完了したことから、令和4年4月から復旧された設備の適切な運用並びに安定的な運転管理を行い、施設の効率的かつ適正な管理運営に努める。

② 県中浄化センター、あだたら清流センター及び大滝根水環境センター

包括的民間委託が導入されている阿武隈川上流流域下水道県中浄化センター、あだたら清流センター及び大滝根水環境センターの維持管理については、第三者機関として受託者の業務履行確認など維持管理補完業務等を適確に行い、施設の効率的かつ適正な管理運営に努める。

なお、大滝根水環境センターでは、田村市が設置するたむら水再生センターからの排水を受け入れることから県及び関係機関と密に連携を図り適正な管理運営に努めている。

③ 放射能対策受託事業

東京電力福島第1原子力発電所事故により、下水処理場の下水汚泥から放射性物質が検出されたことに伴う汚泥等の放射性物質濃度測定業務等について、県と連携を図りながら適正な業務執行に努める。

なお、保管施設で管理していた放射性物質を含む溶融スラグについては、環境省による全量搬出が令和4年5月末までに完了した。

④ 下水道維持管理データシステム整備事業

公社が取り組んでいる維持管理データシステムに県流域下水道4処理区の施設情報並びに維持管理情報を取り入れ、4処理区統一した施設台帳(管渠施設・処理場施設)を整備・構築し、その情報を基にストックマネジメント計画の改定等の提案を行い、流域下水道施設の適正な維持管理及び管理コストの縮減に努める。

令和2年度に完成したシステムは各流域処理場で運用し、維持管理情報の蓄積を行いまた、県内の希望する市町村へ無償配布を行っている。

(2) 公共下水道施設

下水道事業の地方への拡大期に着手・供用を開始した市町村では経年劣化が進行し、ヒト・モノ・カネの問題が顕在化してきている。このことから、これまでの公社のストックを活かし市町村への技術支援を行う。

(3) 下水道災害発生時資材支援事業

災害時支援資材として、マンホール接続用トイレ12基、バルブ付きポリエチレンタンク8台を備蓄し、災害発生時に貸出を行う。

目標

県民の生活環境の改善及び公共用水域の水質保全

(1) 流域下水道施設

総流入量

平成22年度: 50,055,432m³ (県北・県中・あだたら・大滝根)

令和元年度: 54,657,321m³ (県北・県中・あだたら・大滝根)

令和2年度: 54,260,512m³ (県北・県中・あだたら・大滝根)

令和3年度: 55,846,882m³ (県北・県中・あだたら・大滝根)

令和4年度: 54,444,616m³ (県北・県中・あだたら・大滝根)

放流水質(令和4年度実績)

対象施設	単位	測定値(最大)	測定値(平均)	契約基準値
県北浄化センター	BOD(mg/L)	8.6	4.0	15.0

事業実績

※	SS(mg/L)	4.8	2.3	20.0
県中浄化センター	BOD(mg/L)	10.1	5.4	15.0
	SS(mg/L)	8.0	2.8	40.0
あだたら清流センター	BOD(mg/L)	6.7	3.6	15.0
	SS(mg/L)	13.5	3.6	40.0
大滝根水環境センター	BOD(mg/L)	6.6	3.5	15.0
	SS(mg/L)	9.0	3.2	40.0

※県北浄化センターについては、令和元年度東日本台風により被災したが、

施設の復旧が完了したことから令和4年4月より運転を再開した。

各処理区汚泥等保管状況(令和5年3月31日現在) 単位:t

処理場名	熔融スラグ	熔融ダスト	計
県中浄化センター	0.0	0.0	0.0

(2) 公共下水道施設

受託件数

令和元年度:3件、令和2年度:3件、令和3年度:2件、令和4年度:2件

事業費

(単位:千円)

H22決算	R1決算	R2決算	R3決算	R4決算	R3/H22	R4/H22
1,705,122	1,343,880	1,405,408	1,614,974	1,640,925	94.7%	96.2%

3

事業名

下水道技術の維持・発展に関する事業(公3)

継続事業

公益事業

事業内容

(1) 下水道技術者養成事業

① 下水道維持管理研修会

市町村及び県の下水道事業に従事する職員の下水道維持管理に関する専門的知識及び技術に関する研修会を実施する。

② 市町村下水道担当職員研修

市町村の下水道担当職員の技術力習得及び維持向上を目的とする研修を実施する。令和4年度は、初級研修及び積算システム実務研修を開催した。

③ 下水道事業相談業務

市町村等における下水道事業全般に関する相談に対して助言等を行う。

④ 市町村下水道事業相談費用助成事業

市町村が抱える様々な課題について公社へ相談しやすい環境整備として、本来有償となる出張を伴う相談業務についても無償化を図り支援を実施する。

⑤ 市町村下水道事業管理職等研修

公共下水道事業の持続的運営について経済面から考える特別研修を、特定費用準備資金「下水道技術者養成事業積立資産」を活用し、県及び日本下水道事業団と連携し実施する。

令和4年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止の考え方から中止した。

⑥ 下水道関連研修助成

市町村の下水道担当職員の下水道力向上に寄与するため、(公社)日本下水道協会主催の専門研修への参加者に対して、福島県下水道協会と連携し研修助成を実施する。

(2) 下水道排水設備工事責任技術者資格認定事業

下水道排水設備工事を安全でかつ適正に施工するために必要な排水設備責任技術者の技術力向上等を目的とし、責任技術者に係る認定試験、受験講習会、登録更新講習会及び名簿登録事務を実施する。

令和4年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止の考え方から、登録更新講習会は集合講習を変更して、オンラインによるWeb講習動画を配信して自主学習を実施した。

(3) 下水道技術に関する調査・研究事業
維持管理技術の向上及び管理コスト縮減等に係る調査、研究を実施する。

目標 下水道技術者の技術力の維持・発展

事業実績

(1) 下水道技術者養成事業

① 下水道維持管理研修会(参加人数)
22年度:74名、元年度:台風19号の影響により中止、
2年度:38名、3年度:23名、4年度:34名

② 市町村下水道事業担当職員研修(参加人数)
・初級研修
22年度:12名、元年度:19名、2年度:13名、3年度:11名、4年度:12名
・積算システム
3年度:3名、4年度:7名

③ 下水道事業相談業務
22年度:5団体 8件、元年度:15団体 26件
2年度:12団体 21件、3年度:14団体 22件、4年度:8団体 16件

④ 市町村下水道事業相談費用助成事業
元年度:1団体 2件、2年度:2団体 2件、3年度:2団体 4件、4年度:2団体 2件

⑤ 市町村下水道事業管理職等研修
元年度:9人、2~4年度:新型コロナウイルス感染拡大防止の考え方から中止

⑥ 下水道関連研修助成
元年度:14団体 39名、2年度:13団体 48名
3年度:11団体 30名、4年度:29団体 35名

(2) 下水道排水設備工事責任技術者資格認定事業
資格試験受験者数
22年度:176名、元年度:198名、2年度:142名、3年度:201名、4年度:163名
更新講習会受講者数
22年度:1,648名、元年度:1,256名、2年度:1,300名、3年度:745名、4年度:376名

(3) 下水道技術に関する調査・研究事業
22年度:・市町村下水道施設維持管理業務調査
・反応タンクにおける散気装置の違いによる効率的運転手法調査
・処理場における小水力発電(マイクロ発電)等設備調査
元年度:・最終沈殿池分配槽気相部における硫化水素濃度の低減状況調査
・第2スクリーンポンプ棟の供用開始と処理場の運用について※
※台風19号による施設被災のため研究中止
2年度:・ポータブル振動診断器による下水処理場設備機器への活用調査
・中小規模下水処理場の効果的な点検手法について
3年度:・小規模低負荷処理場における散気装置更新による省エネ効果の検証
4年度:・下水道事業普及啓発に係る調査
・各種測定機器の活用調査

事業費	H22決算	R1決算	R2決算	R3決算	R4決算	R3/H22	R4/H22
-----	-------	------	------	------	------	--------	--------

	(単位:千円)	23,939	13,891	14,277	13,871	13,429	57.9%	56.1%
4	事業名	下水道工事に関する設計積算等の受託に関する事業(収1)					継続事業	収益事業
	事業内容	(1)下水道工事に関する設計積算等の受託に関する事業 市町村及び県が実施する下水道工事に係る設計積算等を受託し、市町村及び県の適切かつ円滑な事業実施を支援する。 (2)下水道ストックマネジメント計画策定業務支援事業 当社が開発した施設管理システムである「維持管理データシステム」を用いて市町村下水道のストックマネジメント業務を補完し、市町村が円滑に「下水道ストックマネジメント支援制度」を活用できるよう支援を行う。						
	目標	技術的、専門的な設計積算業務等の技術支援						
	事業実績	平成22年度:14団体 受託件数 26件 受託収入 118,740千円 令和元年度:18団体 受託件数 45件 受託収入 137,949千円 令和2年度:15団体 受託件数 36件 受託収入 184,026千円 令和3年度:17団体 受託件数 28件 受託収入 172,232千円 令和4年度:18団体 受託件数 28件 受託収入 139,943千円						
	事業費	H22決算	R1決算	R2決算	R3決算	R4決算	R3/H22	R4/H22
	(単位:千円)	80,312	76,936	78,627	90,195	83,449	112.3%	103.9%
5	事業名	下水道に関する水質分析の受託に関する事業(収2)					継続事業	収益事業
	事業内容	流域下水道接続点(マンホール、ポンプ場)において、下水道管理者の責務である水質管理業務の支援を行う。						
	目標	公共下水道施設の水質管理業務支援						
	事業実績	平成22年度:8市町 検査箇所 24箇所 受託収入 4,772千円 令和元年度:7市町 検査箇所 21箇所 受託収入 4,782千円 令和2年度:7市町 検査箇所 21箇所 受託収入 4,782千円 令和3年度:7市町 検査箇所 21箇所 受託収入 4,782千円 令和4年度:7市町 検査箇所 21箇所 受託収入 4,815千円						
	事業費	H22決算	R1決算	R2決算	R3決算	R4決算	R3/H22	R4/H22
	(単位:千円)	1,809	3,969	4,500	4,343	3,971	240.1%	219.5%

4 付表3:経営状況

区 分	H22決算	R1決算	R2決算	R3決算	R4決算	R3/H22	R4/H22	
収支の状況	① 収入	2,393,859	2,076,398	2,229,742	2,492,118	2,516,665	104%	105%
	当期収入合計	1,994,016	1,499,751	1,596,601	1,789,509	1,782,030	90%	89%
	うち基本財産運用収入	770	28	28	28	28	4%	4%
	うち特定資産運用収入	429	93	94	85	85	20%	20%
	うち事業収入	139,614	163,048	206,539	190,998	155,550	137%	111%
	うち市町村下水道事業費支援事業収入	2,300	0	0	0	0	-	-
	うち補助金等	1,705,122	1,336,571	1,389,940	1,598,378	1,626,366	94%	95%
	うち雑収入	48	11	0	20	1	42%	2%
	うち基本財産収入	0	0	0	0	0	-	-
	うち基本財産取崩	39,674	0	0	0	0	-	-
	うち借入金	0	0	0	0	0	-	-
	うち特定預金取崩	106,015	0	0	0	0	-	-
	うち引当金取崩額	0	0	0	0	0	-	-
	うち固定資産売却収入	44	0	0	0	0	-	-
	前期繰越収支差額 ^{※1}	399,843	576,647	633,141	702,609	734,635	176%	184%
② 支出	2,174,169	1,484,306	1,535,406	1,758,859	1,779,561	81%	82%	
	うち人件費総額	331,724	277,638	285,044	279,917	298,257	84%	90%
	うち人件費総額管理費(除人件費)	13,908	10,302	10,531	10,383	11,706	75%	84%
	うち事業費(除人件費)	1,597,670	1,196,366	1,239,831	1,468,559	1,469,598	92%	92%
③ 当期収支差額 ^{※2}	-180,153	15,444	61,194	30,650	2,468	-17%	-1%	
④ 次期繰越収支差額 ^{※1}	219,690	633,141	702,609	734,635	816,581	334%	372%	
財産の状況	① 資産	1,467,255	1,550,453	1,641,854	1,619,277	1,709,709	110%	117%
	流動資産	646,325	1,114,146	1,214,859	1,210,880	1,389,802	187%	215%
	固定資産	820,930	436,307	426,995	408,397	319,907	50%	39%
	② 負債	578,789	693,728	740,752	697,564	791,010	121%	137%
	流動負債	387,148	499,182	531,305	493,371	592,986	127%	153%
	うち借入金	0	0	0	0	0	-	-
	固定負債	191,641	194,546	209,447	204,193	198,024	107%	103%
	うち借入金	0	0	0	0	0	-	-
	③ 正味財産	888,466	856,724	901,102	921,713	918,699	104%	103%
	うち当期増減額	-24,601	13,757	44,378	20,611	-3,013	-84%	12%

5 付表4:経営分析

区 分	H22決算	R1決算	R2決算	R3決算	R4決算	R3/H22	R4/H22
①公益事業比率	94.3%	94.5%	94.5%	94.5%	95.0%	100%	101%
支出額計	2,174,169	1,457,982	1,508,910	1,732,579	1,751,773	80%	81%
公益事業支出額	2,049,871	1,377,077	1,425,782	1,638,041	1,664,353	80%	81%
収益事業支出額	124,298	80,905	83,128	94,538	87,420	76%	70%
②直営事業比率	41.30%	50.5%	47.5%	44.7%	51.9%	108%	126%
支出額計	1,797,692	1,430,960	1,500,526	1,719,712	1,738,637	96%	97%
直営事業支出額	776,356	721,951	713,282	768,206	903,123	99%	116%
再委託事業支出額	1,021,336	709,009	787,244	951,506	835,514	93%	82%
③自主事業比率 (自主事業/支出額計)	5.2%	1.9%	0.6%	0.7%	0.7%	13%	13%
④総流入量(m3) (県北・県中・あだたら・大滝根の各センター合計)	50,055,432	54,657,321	54,260,512	55,846,882	54,444,616	112%	109%
⑤施設等稼働率	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%
⑥補助金等(補助金・負担金・交付金・委託料等)比率 (補助金等額/当期収入合計)	85.5%	89.1%	87.1%	89.3%	91.3%	104%	107%
⑦流動比率 (流動資産/流動負債)	166.9%	223.2%	228.7%	245.4%	234.4%	147%	140%
⑧管理費比率 (管理費/支出額計)	4.1%	1.8%	1.7%	1.5%	1.6%	37%	39%
⑨人件費比率 (人件費/支出額計)	15.3%	18.7%	18.6%	15.9%	16.8%	104%	110%
⑩借入金比率 (借入金/資産)	0%	0%	0%	0%	0%	-	-
⑪一人当たりの人件費 (人件費/総職員)	6,911	6,170	6,334	6,220	6,346	90%	92%
⑫一人当たりの事業収入 (事業収入/総職員)	38,480	33,325	35,477	39,764	37,913	103%	99%
⑬補助金等(補助金・負担金・交付金・委託料等)に含まれる人件費比率(人件費/補助金等)	12.9%	14.5%	14.0%	11.7%	12.1%	91%	94%
⑭事業収入に含まれる人件費比率(人件費/事業収入)	18.0%	18.5%	17.9%	15.6%	16.7%	87%	93%

5 付表4-2:経営分析

⑮長期借入金の状況	(令和4年決算の内訳)		(単位:千円)
借入先	金額	目的	返済予定
	利率		
該当なし			

6 付表5:組織人員体制

1 役職員の状況

(単位:人)

区分	H22末	R1末	R2末	R3末	R4末	R5(4/1)	R4/H22	R5/H22	
役員 (監事含む)	常勤役員	3	2	2	2	2	67%	67%	
	プロパー	0	0	0	0	0	-	-	
	民間	0	0	0	0	0	-	-	
	県OB	2	2	2	2	2	100%	100%	
	県現職派遣	1	0	0	0	0	-	-	
	その他	0	0	0	0	0	-	-	
	非常勤役員	10	9	9	9	9	90%	40%	
	民間	1	1	1	1	1	100%	100%	
	県OB	0	0	0	0	0	-	-	
	県現職	1	1	1	1	1	100%	-	
	その他	8	7	7	7	7	88%	38%	
	合計	13	11	11	11	11	6	85%	46%
	職員	常勤職員	33	30	31	30	29	88%	94%
プロパー		23	26	27	26	25	109%	117%	
民間		0	0	0	0	0	-	-	
県OB		0	0	0	0	0	-	-	
県現職派遣		9	4	4	4	4	44%	44%	
その他		1	0	0	0	0	-	-	
非常勤職員		13	15	14	15	18	138%	123%	
嘱託員		4	5	6	7	9	225%	200%	
臨時職員		8	8	7	7	7	88%	75%	
人材派遣		1	2	1	1	2	200%	200%	
その他		0	0	0		0	-	-	
合計		46	45	45	45	47	47	102%	102%

2 職員の年齢構成 (令和5年7月1日現在)

(単位:人)

区分	~30歳	31~35	36~40	41~45	46~50	51~55	56~60	61~
管理職員	プロパー					4	1	
	民間							
	県OB							
	県現職派遣							
	その他							
	合計	0	0	0	0	0	4	1
一般職員	プロパー	5	1	3	3	6	2	0
	民間							
	県OB							
	県現職派遣	1	1	1				1
	その他							
	合計	6	2	4	3	6	2	1
総計	6	2	4	3	6	6	2	2

7 付表6: 県の関与状況

区 分		H22決算	R1決算	R2決算	R3決算	R4決算	R5当初	R4/H22	R5/22
財政的 関与	①補助金等	1,705,122	1,336,571	1,389,940	1,598,378	1,626,366	2,229,675	95%	131%
	補助金							-	-
	負担金							-	-
	交付金							-	-
	委託料	1,705,122	1,336,571	1,389,940	1,598,378	1,626,366	2,229,675	95%	131%
	指定管理料							-	-
	②貸付金							-	-
	③損失補償額(契約額)							-	-
④債務保証額(契約額)							-	-	
人的 関与	⑤役員就任(監事を除く)	4	3	3	3	3	2	75%	50%
	常勤役員	3	2	2	2	2	2	67%	67%
	県OB	2	2	2	2	2	2	100%	100%
	県現職派遣	1	0	0	0	0	0	-	-
	上記以外の職員	0	0	0	0	0	0	-	-
	非常勤職員	1	1	1	1	1	0	100%	-
	三役	0	0	0	0	0	0	-	-
	部局長	1	0	0	0	0	0	-	-
	県OB	0	0	0	0	0	0	-	-
	上記以外の職員	0	1	1	1	1	0	-	-
	⑥監事就任	0	0	0	0	0	0	-	-
	三役	0	0	0	0	0	0	-	-
	部局長	0	0	0	0	0	0	-	-
	上記以外の職員	0	0	0	0	0	0	-	-
	⑦評議員就任	2	1	1	1	1	1	50%	50%
	部局長	0	0	0	0	0	0	-	-
上記以外の職員	2	1	1	1	1	1	50%	50%	
⑧職員派遣	9	4	4	4	4	4	44%	44%	
管理職員	4	0	0	0	0	0	-	-	
一般職員	5	4	4	4	4	4	80%	80%	

8 別紙1

区分	名称	R4決算額
	補助等の目的	(単位:千円)
補助金		
	補助金額合計	0
負担金		
交付金		
委託料	阿武隈川上流流域下水道維持管理業務及び維持管理補完業務の委託、 下水汚泥放射能対策業務の委託	1,626,366
	①県北処理区の維持管理業務及び維持管理補完業務 ②県中処理区の維持管理業務及び維持管理補完業務 ③二本松処理区の維持管理業務及び維持管理補完業務 ④田村処理区の維持管理業務及び維持管理補完業務 ⑤下水汚泥放射能対策業務	
	委託料額合計	1,626,366
指定管理料		
貸付金		
損失補償額		
	損失補償額合計	0
債務保証額		
	債務保証額合計	0

9 別紙2 役員の状況

令和5年6月末現在

区分	定数	氏名	常勤・非常勤の別	職名	当初就任日
					現任期満了日
理事長	3名以上 9名以内	益子 公司	常勤	元福島県土木部技監	R5.4.1 令和5年度に関する定時評議員会の終結の時
副理事長					
専務理事					
常務理事		清野 宏明	常勤	元福島県労働委員会事務局次長	R4.4.1 令和5年度に関する定時評議員会の終結の時
理事		森 雅彦	非常勤	福島市都市政策部長	R4.5.12 令和5年度に関する定時評議員会の終結の時
		山際 敬司	非常勤	伊達市建設部長	R4.5.12 令和5年度に関する定時評議員会の終結の時
		佐久間 健一	非常勤	郡山市上下水道局長	R5.5.12 令和5年度に関する定時評議員会の終結の時
		西山 貴夫	非常勤	矢吹町上下水道課長	R5.5.12 令和5年度に関する定時評議員会の終結の時
		鈴木 喜代一	非常勤	二本松市建設部長	R5.5.12 令和5年度に関する定時評議員会の終結の時
		石井 敏夫	非常勤	田村市建設部長兼上下水道局長	R5.5.12 令和5年度に関する定時評議員会の終結の時
		大竹 和彦	非常勤	福島県土木部次長(都市担当)	R5.5.12 令和5年度に関する定時評議員会の終結の時
監事	1名以上 2名以内	佐藤 雅宏	非常勤	福島市会計管理者兼会計課長	R4.5.12 令和5年度に関する定時評議員会の終結の時
		高野 宏之	非常勤	公認会計士	H28.6.15 令和5年度に関する定時評議員会の終結の時